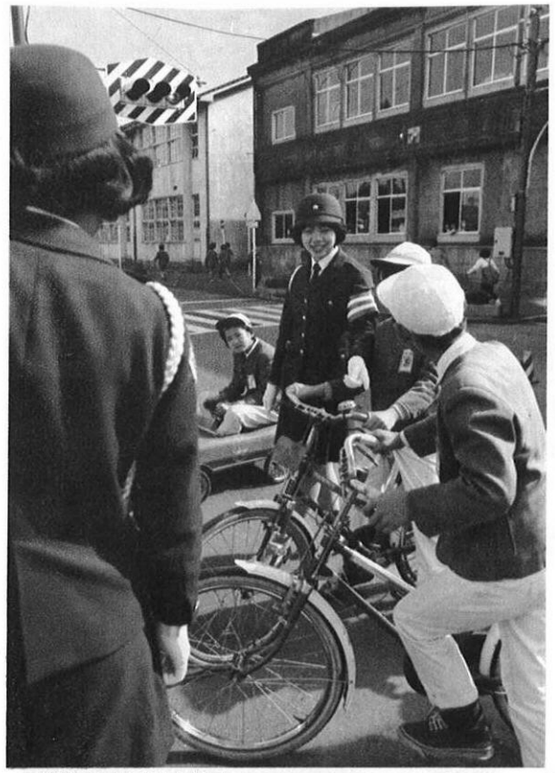

▲ 学校の交通安全教室…
きょうは自転車乗りの安全指導を。

▲ 登校時の学童の交通指導。もう顔なじみになった。

▲いざ出発…主任さんからきょうの指導要点をきく。

## 交通指導員がんばる

「歩行者は右側を歩きましょう」「ここは、駐車禁止区域です。人待ち、荷待ちは駐車になります…。」

交通安全広報車から澄んだ声が流れる。おや？とふり返ると、声の主は可れんなお巡りさん。正しくは、昨年暮から登場した交通巡視員の人たち。

仕事は、駐車違反の取締りと歩行者の交通指導。２人または３人１組で市街をパトロールしながら、駐車違反の車があれば「ここは駐車禁止ですよ」と持主に注意をする。そんな時「すみません、すぐ出します」とすなおにあやまられると、つい大目にみてしまう。だが、「悪質なものは勇気をもって取り締る」ときびしい一面ものぞかせる。

もともと、彼女たちが、この仕事を選んだのも交通事故防止に役立ちたいという気持から。だから、早朝出勤して、登校する児童・生徒の身の安全を守ったり、横断歩道を渡れずにいるお年寄がいると、手を引いてやったり、ときには迷い子の世話をしたり、かなり献身的な活動をしている。交通公園で交通安全教育に協力したり、交通整理に立つことも多い。

こうした中身の立派さもさることながら、制服はごらんのとおりスマートなもの。そのカッコよさが受けて早くも女子高校生のあこがれのまと。ドライバーや一般市民からも「交通混雑の中に咲いた花のよう」「親しみがもててい」と好評を博している。

彼女たちの意気込みも大変なもので「私たちが最初ですから頑張らねば…」と小さな白バイにのって、きょうもパトロールに出かけていく。

（八代警察署にて）

▶「この車、ちょっと歩行者の邪魔になりますね…」。

昨年の日本経済は変化の多い年であった。とくに、四十年十一月以来の大型景気は昨年夏頃から屈折をみせ、高度成長路線もようやく転換期を迎えたといえるようである。そのような中で、造船業は、世界的な船舶不足に支えられ、生産・受注ともに快調な歩みを続けている。そこで、新春早々長洲町に起工した日立造船のアウトライン及び、有明工場の構想などについてふれてみることにしよう。（グラフページ参照）

★★ かいせつ ★★

# 日立造船の横顔

## ―― 夢がいつぱいの有明工場建設計画・・・

（カツト写真は、45年堺工場で完成した21万3000トン型のタンカー）

### ◆脚光あびる造船業

日本造船工業会の推定によると、わが国の昨年の新造船の建造量は世界進水量の四七・七％にあたる九八七万九〇〇〇総トンに達し、二位の西ドイツを大きく引き離して、連続十五年間世界一の座を占めている。

ところで四十五年の世界の建造量一九六三万総トン（推定）に対して、五十年には、三〇五一万総トンにふえる見通し（日本造船工業会）だが、一方国内船の船腹需要については四十四年から四十九年度までの六カ年間の船腹拡充計画として、二、八〇〇万総トンとしており、この計画を全うするためには、今後、年間五〇〇万総トン以上の国内船の建造が必要とされている。

このような状況の中で、内外ともに新造船需要が極めて盛んになり、日本の造船界では大型造船所の新設計画を次々に発表している。日立造船の有明工場のほか、三菱造船の香焼工場などがそれである。

### ◆新しい船づくり体制と日立造船

以上のような恵まれた状況のもとで、日立造船は、昨年三二隻・二〇六万重量トンを進水させ、五二隻・四一九万重量トン受注達成という、創業以来最高を記録し、船舶進水量〝世界ビッグスリー〟の地位を確保している。工場別にみると堺工場では、山下新日本汽船むけ「海燕丸」など五隻が進水し、因島工場（広島）ではコンテナ船「東豪丸」をはじめ、大型兼用船など一〇隻を、また、向島（広島）ではシベリヤむけ「ワールドチャンピオン」など標準船を中心に一〇隻を進水させ、文字どおり標準船の連続建造が好調に進んでいる。

また修繕船部門では、年間二〇〇〇万総トンに迫る新造船の竣工による船腹量の飛躍的な増大に比例して、着実な工事量の伸びを示している。特に神奈川工場で、タンカーから世界最大の総合工船に大改造した日本水産むけ「峰島丸」は、日立造船の改造技術の実力を示すものとして業界の注目を集めた工事として知られている。

### ◆有明工場（長洲）の構想

ところで、本県の長洲地区に進出した日立造船有明工場の建設計画は、前述したような大型船の需要の急増から、当初計画されていた大型陸残工場建設を変更して、船・陸・船の順序で工場を建設することになり、四十八年操業めざして計画が進められている。有明造船新工場の構想についてのあらましは次のとおりである。

**◇ 生産性の高い工場に**

今後開発が期待される技術・機器を駆使して生産性の高い工場とするとともに将来開発される技術など、夢を組み入れる余地を残した工場とすることが考えられている。

**◇ 働きやすい魅力的な職場へ**

深刻な労働力不足に備えて、熟練労働力の確保がむずかしくなるので、熟練を要する作業より、働きやすい魅力的な職場をつくる。

そのため、屋内作業をふやし、防暑・換気、除塵などにより作業環境を整備し、重筋・汚れ・高所作業などを少なくする方針が考えられている。

**◇ 柔軟性のある工場**

船型の巨大化や生産量の増大・船体構造の変化など、さまざまな変革に対応できる自由度の高い柔軟性に富んだ計画が進められていく。